

1 日時

令和7年7月23日(水) 16:00~18:20

2 場所

神奈川県立がんセンター 管理・研究棟5階 大会議室

3 出席委員

- ・ 菊地 龍明 委員長 (横浜市立大学附属病院 医療安全管理部長 (医師))
- ・ 大内 邦枝 委員 (千葉県がんセンター 医療の質・安全管理部 部長 (医師))
- ・ 大塚 達生 委員 (神奈川総合法律事務所 (弁護士))
- ・ 天野 慎介 委員 (一般社団法人全国がん患者団体連合会 理事長)

欠席委員

- ・ 加藤 節子 委員 (神奈川県看護協会 危機管理課 課長 (看護師))

4 新任委員の紹介と委員長の選出

5 議事次第

- 1) 前回の医療安全監査委員会での指摘事項への対応状況について
- 2) 神奈川県立がんセンター令和6年度医療安全活動実績、神奈川県立病院機構5病院及び当院における今年度の取り組みについて
- 3) 医療安全関連会議議事録等の記載内容について
- 4) 医療事故調査について
- 5) 神奈川県立がんセンター医療安全監査委員会 監査方法及び重点監査に関する検討

6 質疑応答

- 1) 前回の医療安全監査委員会での指摘事項への対応状況について
 - ・ 医療安全監査委員会要綱改定箇所について、説明がされた。
 - ・ 手術遺残対策としての強調モニター導入を行ったことについて、病棟配置薬使用時の確認手順を明文化し院内へ周知したことについて報告がされた。
 - ・ 手術タイムアウト時の部位マーキングについて取り組み状況が報告された。
 - ・ 誤嚥アセスメント方法の検討をプロジェクトチームで進めていく事が報告された。
 - ・ 医療安全文化調査の結果と職員へのフィードバックについて報告がされた。
 - ・ 院内事故調査委員会の各委員会の規定と審議の流れについて説明がされた。

<委員からの意見>

 - ・ 監査委員会要綱の表現の工夫が必要である。
 - ・ 手術部位を術野で視認できる位置に直接マーキングすること、実際の手術部位を患者と確認する事が基本である。
 - ・ 誤嚥対策は慎重な判断とフォロー体制が重要であり、過度な制限は嚥下機能を損なう可能性があり目的を忘れずに教育を進める必要がある。
 - ・ 医療安全文化調査は、経年変化の把握と回答率向上が重要である。また、結果は病院としての

評価を添えて伝えるべきであり、少数意見を反映する工夫も必要である。

- ・ 院内事故調査に関わる委員会が定期的開催されていることは把握できたが、院内での文言の統一や各種マニュアル等の再整備が必要である。
- 2) 神奈川県立がんセンター令和6年度医療安全活動実績、神奈川県立病院機構5病院及び当院における今年度の取り組みについて
- ・ 令和6年度医療安全目標の達成結果について報告がされ、今年度機構5病院での医療安全共通QIおよび重点項目、当院の医療安全目標について説明がされた。
<委員からの意見>
 - ・ 合併症・有害事象報告やオカレンス報告などは医師の報告件数増加に繋がるが、有害事象・合併症の内容については安全の観点から十分な精査が必要である。
- 3) 医療安全関連会議議事録等の記載内容について
- ・ 病理解剖・AIの実施状況について質問があり、現状について説明がされた。
 - ・ 深部静脈血栓症(DVT)リスク評価の実施状況について質問がされ、評価方法等が説明された。
<委員からの意見>
 - ・ 病理解剖は、将来的な調査に備え客観的な所見の記録が重要であり、積極的に求める基準を設ける必要がある。
 - ・ DVTに関しては、がん専門病院のためしっかりと実施していく必要がある。予防に関しては引き続き意見交換を行っていく。
- 4) 医療事故調査委員会について
- ・ 報告書の提出をしたことが報告された。
<委員からの意見>
 - ・ 読影での重要所見に対する確実な対応が課題となっている。引き続き、対応確認に関する検討をお願いしたい。
- 5) 神奈川県立がんセンター医療安全監査委員会 監査方法及び重点監査に関する検討
- ・ 次回以降の重点監査方法について委員長より提案があり承認がされた。

7 次回課題

- ・ 院内事故調査に関わる指針・マニュアル等の記載内容の見直し
- ・ 有害事象・合併症の取り扱いについて
- ・ DVT 予防について
- ・ 病理解剖の依頼方法について
- ・ 読影での重要所見への対応確認について

以上